

京都大学教育研究振興財団助成事業  
成果報告書

平成24年 4月 2日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会長 辻 井 昭 雄 様

所属部局 京都大学放射線生物研究センター

職 名 准教授

氏 名 井 倉 毅

助成の種類	平成23年度・研究成果公開支援・国際会議開催助成		
事業内容	第27回RBC-NIRS国際シンポジウムの開催		
開催期間	平成23年12月 9日 ～ 平成23年12月10日		
開催場所	コープイン京都		
参加者	総数 140名	内訳 講演者:16名 参加者:124名	
成果の概要	タイトルは「成果の概要/報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有( 受払簿 )		
会計報告	事業に要した経費総額	(飲食・宴会経費を除いた額)	1,930,000円
	うち当財団からの助成額		1,500,000 円
	その他の資金の出所	(機関や資金の名称)	京都大学放射線生物研究センター
	経費の内訳と助成金の使途について		
	費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)
	旅費、宿泊費	1,090,843	920,843
	謝金	168,000	168,000
	会場設備利用費	307,080	307,080
	要旨集、ポスター印刷代	263,880	41,880
PCレンタル及び設置費用	100,197	62,197	
合 計	1,930,000	1,500,000	

## 成果の概要／井倉 毅

### 第 27 回 RBC-NIRS 国際シンポジウム

題目：DNA 損傷応答シグナルにおけるクロマチン動態とエピジェネティック制御

Chromatin dynamics and epigenetic memory in DNA damage response

開催日時 平成 23 年 12 月 9 日（金）-10 日（土）

開催場所 コープ・イン・京都

（〒604-8113 京都市中京区柳馬場蛸薬師上ル井筒町 411）

#### 概要

本シンポジウムでは、転写、複製、修復研究において第一線で活躍されている研究者の方々をお招きし、第 1 日目は、クロマチン構造変換機構の視点から、DNA 代謝制御機構についての最新の知見をご紹介頂き、転写、複製、修復に関与する蛋白質ネットワークと DNA 損傷応答シグナルとのクロストークについて議論した。第 2 日目は、第 1 日目での知見をもとにクロマチン構造を介した DNA 損傷応答シグナルのエピジェネティック制御および DNA 修復を中心とした研究と転写を介した細胞応答研究、iPS 細胞に代表される細胞分化シグナルの研究といった異なる分野の研究について、これまで見えてこなかったストレス応答シグナルのクロストークについて議論した。計 140 名の参加者があり、活発な質疑応答が展開された。

#### 招待講演者

##### Invited speakers

Jerry L. Workman (STOWERS INSTITUTE)

Mitinori Saitou (Graduate School of Medicine and Faculty of Medicine, Kyoto University)

Hozumi Motohashi (Tohoku University Graduate School of Medicine)

Yoichi Shinkai (Institute for virus Research Kyoto University)

Jesper Svejstrup (Cancer Research UK London Research Institute)

Jessica Tyler (The University of Texas MD Anderson Cancer Center)

Akira Yasui (Institute of Development, Aging and Cancer, Tohoku University)

Kaoru Sugasawa (Biosignal Research Center, Kobe University)

Chikahide Masutani (Nagoya University Research Institute of Environmental Medicine)

Wei Yang (National Institute of Health, NIH)

Alessandro A. Sartori (University of Zurich Institute of Molecular Cancer Research)

Minoru Takata (Radiation Biology Center, Kyoto University,)

Kanji Furuya (Radiation Biology Center, Kyoto University)

Natale Francesco (GSI Helmholtzzentrum für Schwerionenforschung GmbH)

Kenshi Komatsu (Radiation Biology Center, Kyoto University)

Michael Lieber (University of Southern California)